

第 19 回環境影響評価アドバイザー会議 議事要旨

1.開催日時 平成 18 年 9 月 27 日(水)午後 2 時 00 分から午後 4 時 05 分

2.開催場所 名古屋ダイヤビルディング2号館 7 階第 12 会議室

3.出席者

環境影響評価アドバイザー委員

加藤久和委員長、吉田克己副委員長、青山光子委員、石井実委員、植下協委員、北原英治委員、久野和宏委員、芹沢俊介委員、武田明正委員、成瀬治興委員、遊磨正秀委員

事務局 (財)2005 年日本国際博覧会協会

中村事務総長、黒瀬環境管理室長、永井課長代理(環境管理室)、石原撤去管理室長他

4.議事

(1) 開会

事務局あいさつ

委員長あいさつ

(2) 「2005 年日本国際博覧会に係る環境影響評価追跡調査(モニタリング調査)報告書(平成 17～18 年度)」(案)」について

博覧会協会より、「2005 年日本国際博覧会に係る環境影響評価追跡調査(モニタリング調査)報告書(平成 17～18 年度)」(案)」について説明した。

質疑応答

委員

ギフチョウ・モンゴリナラに着目した公園型里山生態系の中で「帰化タンポポ」という言い方が入っているが、「外来タンポポ」に置き換えていただきたい。外来種問題というのは言葉を統一するようになってきて、「帰化」というのをやめて「外来」を使うようになってきている。

藤岡の駐車場のハッチョウトンボの一番下の表について、17 年度、それから 18 年度の延べ個体数が 105、138 となっているが、これは 3 回の調査の延べということだが、ハッチョウトンボというのは雄が縄張りをつくるから、わりと定員があるようなトンボじゃないかと思うが、調査の仕方の延べというのはどういうふうな積算の仕方なのか教えて欲しい。

事務局

延べということですので、今回の調査は平成 18 年度であれば 6 月、7 月、8 月と 1 回ずつ 3 回現地を確認させていただきまして、同じものを何回も数えている可能性もあります。保全した湿地全体をくまなく確認してこの数字になったということです。

委員

保全した部分はかなり狭くて、その周りののり面などの植生にハッチョウトンボがいるような気がする。こういうのも含めてのものなのかなというふうにも思うが、縄張りをつくるトンボなのであの狭い水域にこんなにたくさんいるというのは考えにくく、その辺について脚注か何かでもうちょっと補足説明して欲しい。

それから、ゲンジボタルの表に、積算現存個体数とか推定総数とか統計処理をした数値が出ているが、どういう手法で推定値を出したのか、脚注に推定総数を出した方法を書いていただきたいと思う。

委員

騒音や振動で、調査地点が異なるため単純比較ができないとあるが、これはどういうふうに違うのかという、その辺を明らかにする必要があると思う。

事務局

記載方法については検討してみます。

委員長

タイトルが「ギフチョウ・モンゴリナラに着目した公園型里地生態系」ということになっていながら、実際は、タンポポマッピングという形で調査、評価している関係が、ちょっとわかりにくいので、その辺の説明がどこかで要るのではないかな。

それから、先ほども外来種と帰化種の用語の問題があったが、例えばこの1ページには、「ベルトトランセクト」なんていうカタカナ文字があるが、これは読んだだけでは非常に特殊なこの業界でのみ使われる用語なのかなと思うので、どこかで説明するとか、ほかによりわかりやすい用語があればそれを使うとか、何かの工夫があればいいと思う。これ全体を見ると、単なる万博の開催に伴うアセスメントの範疇を超えているというか、そういう結果が得られていると思うし、非常に貴重なデータであり、また万博に限らず里地生態系を開発するような場合の、環境アセスメントのみならずその後の生態系の維持・保全についての示唆が得られていると思う。

委員

ギフチョウとモンゴリナラのところに突然タンポポが入ったというのは、もともとアセスメントというのは、今まであったものがなくなるという影響評価しか想定してなかったのが、ないものがある状態になる影響評価というのを考えなくちゃいけない。そうすると、ギフチョウやモンゴリナラというのはもちろん今あるわけで、それだけでは見きれないからほかのものを入れようと、何を入れたらいいだろうということで議論した結果、ここでタンポポが突っ込まれたということだったと思う。アドバイザー会議で議論した結果、外来種の方の指標として何かやらなくちゃいけない。何をやるかという議論をした結果、タンポポが突っ込まれたということだろうと思うから、その辺をちょっと書かないといけないということだと思う。

それから、用語の問題で、「外来」と「帰化」というのは、ちょっと使い方が違い、「外来」というのは、本来その生育地にいなかったものが入り込んだもの、「帰化」というのは外国から入ってきたもので、タンポポの場合は、「帰化タンポポ」という言い方は定着しており、この場合は「外来タンポポ」で

はなく「帰化タンポポ」、つまり外国から来たものだけを問題にしているのだから、用語としてはやはり「帰化タンポポ」を使わないと、ほかの一般的な記述との整合性がとれないと思う。「外来」と「帰化」の用語はどこかできちんと整理しておく、注釈をつけておく必要があるだろうと思うが、報告書の中では「帰化タンポポ」と言わないと普通の人にはわからないんじゃないか。

委員

環境省の外来種問題の委員をやっているが、基本的に「帰化」というニュアンスからいうと、外来種問題につながるようなイメージがなくて、これは日本にもう既になじんでしまったものというイメージになってしまうということから、あえて全部「帰化」をやめて「外来」にしようという方針を受けて、私はここでは「帰化」というのはやめて「外来」がいいんじゃないかというふうに主張しているのだが。

委員

少なくとも植物の一般的な社会ではオーソライズされてないものだから、やはり読者のことを考えると私はやはり「帰化タンポポ」の方がいいと思う。

委員長

専門家の方たちのご意見を伺って、どちらかに統一するか、説明をつけて用語を用いるというふうにして欲しいと思う。

委員

北の部分はかなり変化がある。南の部分は、かなり人が入り込んでいるわけであるが、そのわりには変化がない。園路のバリアフリーのためにデッキを整備したわけだが、あれは人里植物の侵入を防止するという観点からいえば意外と影響は大きかった。十分に注意して工事をしたということはもちろん承知している。それにもかかわらずやはり影響が大きかったということはある。もちろん、バリアフリーというのは価値のあることだが、今後こういうふうなイベント等を開催するときには、そこら辺のバランスを考えてやってくださいと、こういうふうなまとめ方が妥当かとは思う。

事務局

確におっしゃるとおりでございまして、ここでは、最終的には監視目標に対して評価をするというよりも、評価した後に監視目標を達成してなければ公表するという趣旨を踏まえれば、監視目標を達成している、していないというような議論よりも、ここで出たものをみんなに残しておく方が趣旨には合うのではないかということで、そういったものを残していきたいという趣旨でございます。

委員

基本的には、ほとんど監視目標は達成できている。監視目標というふうな観点で言えば、問題が生じたというのはタンポポぐらいで、あとはほとんど監視目標は達成できているという結論。そういう点では、これくらいしかなかったというのは、全体として見ると、これだけの大きなイベントをやって非常にすばらしい結果だったと思う。

委員長

それでは、まだご質問やご指摘の事項があれば、いつものように封筒を用意していただいているので、あるいはメールでも、できるだけ早いうちに事務局の方にお寄せいただきたいと思います。

(3)「愛・地球博 環境アセスメントの歩みと成果 ～2005年日本国際博覧会環境影響評価の総括～（案）」について

博覧会協会より、「愛・地球博 環境アセスメントの歩みと成果 ～2005年日本国際博覧会環境影響評価の総括～（案）」について説明した。

質疑応答

委員

現在の青々とした農地と、その前の写真があれば、それを載せる方が望ましいというふうにする。さら地にした状態で返したその後が、どう農地に適応されたかというようなことが比較できると一番ありがたいなと思ったが、その辺の写真は撮っているのか。農地として一番よいということがわかる状況を比較してほしい。その方がちゃんと農地で使えているということがよくわかるのではないかと思う。このままだと、裸の土地になってしまうので、それが農地かどうかというのがよくわからない。

事務局

探してみたいと思います。

委員長

第8章の「まとめ」について、何かもう少しまとめらしい評価を加えたまとめがあると、なおいいと思うし、あるいはもう「まとめ」ということではなしに、それこそこれ全体の終わりに当たって、「あいさつ」に対応するようなものにとどめるたらどうか。

それから、第2段落の3行目、「有識者の先生方は、78名を数え、また事業者や関連行政機関等、直接の関係者も歴代で100名を越える」、この「歴代で」というと、何か職責があってその職責を継いだ人のことだけを指しているみたいにも思えるので、できれば簡単に「延べ」とかいう言い方で足りると思う。

委員

一般の人がこういうアセスメント総括を見て、気になるのは、お金が幾らかかったのか、そういう部分も気になると思う。非常に膨大な報告書が出ているから、それは膨大な仕事をしたのだろうと思うのは当然だが、それが一体どれぐらいのオーダーなのか一般の人が知りたいのはそういうことじゃないかなとも思う。やはりそういうものの総数みたいなものがぱっと一覧表なんかにあると、このアセスメントの規模がわかっていいものになるのではないかなという気がする。

委員長

お金を具体的にどこまで算出できるかはわからないが、この総括報告書として強調しているのは、非常に幅広い層の方々の意見をできるだけ取り入れてアセスメントも行うし、また環境保全のための措置にも参加協力を得たという点だろうと思う。「第2章 幅広い意見聴取の実施」、それからその結果が「第4章 環境保全措置の検討と総合評価」というところにあるので、まとめの章ではその辺を強調した方がいいのではないか。つまり、単にこういう報告書が歴代何人の人間が関係してこういう評価をやったということだけではなくして、もっと広く、より多くの市民や団体、企業等も幅広い参加をして、言ってみればだれにとっても初めての経験であるこのような万博のアセスメントが行わ

れたという点をぜひ強調していただきたい。その結果、こういう経験と新しい知見が得られたというのもまとめとして簡単に入れられればというふうに思う。

(4) 閉会

委員長

最後の会議と言うことだが、ほかにも多分ご意見があると思うので、ぜひ、できるだけ早いうちに事務局の方へ郵送なり、あるいはメール等でお寄せいただければと思います。

事務局

本日も議論をいただきました博覧会開催時及び解体撤去工事中となります平成 17～18 年度の「環境影響評価追跡調査(モニタリング調査)報告書」につきましては、アセス要領上の最終的な報告書となりますけれども、本日のご意見を踏まえながらさらに検討を進め、報告書として取りまとめ、公表することにいたしたいと考えております。

また、本日も意見をいただきました「愛・地球博 環境アセスメントの歩みと成果」につきましても、本日のご議論を踏まえながらさらに検討を進め取りまとめ、先ほどご案内いたしましたアセス要領上の最終的なモニタリング報告書の公表後になりますけれども、同じく総括の方も公表することにいたしたいと考えております。

なお、環境影響評価アドバイザー会議は、今回の第 19 回をもちまして一応最後というふうに考えておりますことから、最後に、中村事務総長よりご挨拶申し上げます。

事務総長

どうも本日は長時間ありがとうございました。最初にも申し上げましたように、平成 10 年以來 8 年間余にわたりまして、本当にありがとうございました。確かに、どれだけの努力をしたかというのは、金額とか数字で示すとより迫力があるかなど。私は講演では、もろもろ足しますと約 30 億かけておると言っておりますが、そこまでやったということを記述するのも一案だなと思いますので、その成果としてこういう結果が出て、さらに将来のいろんな参考になるような知見も得られたと、そういうことをしっかり言っていきたいなというふうに思っていますので、今のご指摘を踏まえましていろいろ直したいと思っています。

事務局

どうも長い間ありがとうございました。おかげさまで、先生方にいろいろご指導いただきまして、今回、このように立派な最終的に皆様に評価されるような環境影響評価ができたということ、本当に感謝いたしております。本当にありがとうございました。

委員長

どうもご苦労さまでした。今、伺ってなるほどもう足掛け 8 年にもなるのかと思いましたが、このアドバイザー会議としても長い間にわたって議論を重ねてまいり、お役に立つ部分が多ければ非常によかったと思います。

冒頭のご挨拶でも申し上げたように、事務局の方々にとってはちょっと厳しいというふうに感じられ

たときもあったのではないかと思うが、それもこれも、ぜひともいい博覧会としてそのアセスメントをやっていたきたいという私たちの思いから出たものですので、その辺をご了解いただきたいと思えます。

今後も皆さん方それぞれの分野でよりよい環境アセスメントの実施に向けてご尽力いただくことをお願いし、最後の会議終了の言葉とさせていただきます。

それでは、本日の会議はこれで終了します。どうもありがとうございました。